



## Top Message

代表取締役社長 油木田祐策



株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに2020年9月期第2四半期における当社の事業概況、および今後の見通しについてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境のゆるやかな改善が続いたものの、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大により、国内外の景気は急激に悪化しました。

当社グループにおいては、中国経済の減速、米中貿易摩擦等に起因する取引先の減産が期首より継続したこともあり、当社の貴金属取扱数量は前期を下回りました。また、2019年10月に発生した台風19号による水害により、環境事業の一部製品を生産する富久山工場が水没したこと等により、環境事業の製品販売数量は前期を下回りました。操業を停止しておりました富久山工場は、4月から操業を再開し5月に復旧を完了いたしました。主要製品の価格は、貴金属価格が主に米国の金利政策や新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大による実体経済の減速懸念により前年を上回り、銅の価格は中国経済の減速等により前年を下回りました。利益面では、貴金属価格の上昇、経費の削減により営業利益、経常利益は黒字となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は115百万円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影

響はありませんでしたが、先行きについては、その終息が見えない状況が続いており、世界的な自動車販売台数の減少や電子機器市場の停滞等により、当社グループの主要な取引先である電子部品・デバイスメーカーの減産や操業の一時停止が今後考えられます。

このような事業環境のもと、当社グループは電子部品・デバイスメーカーの生産回復期において、いち早く市場ニーズに応えることができるよう、これまで進めてきた企業体質強化の取り組みを継続するとともに、レアメタル事業を中心とする新規事業の収益化に注力してまいります。レアメタル事業では、将来の市場拡大が見込まれるリチウムイオン二次電池の材料に使用されるレアメタルのリサイクル技術の開発を進めるとともに、現在は二次電池材料メーカー等で評価試験を進めております。引き続き技術開発と量産体制構築を進め、早期事業化に向けた取り組みを加速してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 当第2四半期連結累計期間の概況

## 【当第2四半期連結累計期間は減収減益】

当第2四半期連結累計期間の業績は、撤退を決定した海外子会社での減少、貴金属事業における主要取引先の減産影響、台風19号の水害などにより減収減益となりました。売上高は3,676百万円（前年同四半期比25.0%減）、営業利益は46百万円（同65.0%減）、経常利益は34百万円（同74.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は115百万円（同20.6%増）となりました。特別利益に台風被害による保険金462百万円を計上し、特別損失に当第2四半期連結累計期間末時点での台風被害による復旧費用および海外子会社の撤退に関する費用等を343百万円計上しております。

## 【業績の見通しについて】

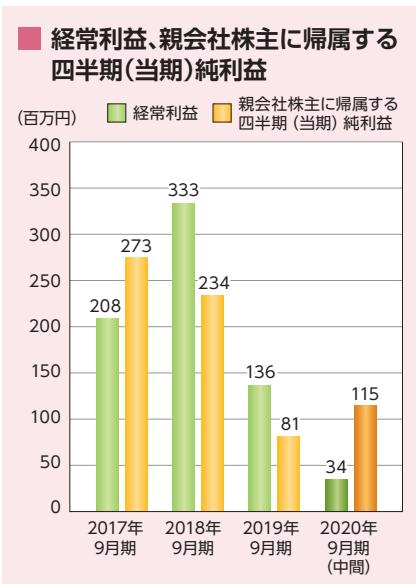
新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、国内外の実体経済に大きな影響が生じており、その終息が見え

ない状況になっております。

このような環境の中、上期（2019年10月～2020年3月）においては、当社の主力製品である貴金属の取扱数量について影響はありませんでしたが、下期（2020年4月～2020年9月）においては減少し、当社グループの業績を押し下げる要因になると予想しております。

これは、世界的な自動車販売台数の減少や、電子機器市場の停滞等により、当社グループの主要な取引先である電子部品・デバイスメーカーの減産や操業の一時停止が予想され、この影響による当社グループの業績に与える影響額を算定することが困難であることから、通期の業績予想は前回発表予想を修正し、未定とすることといたしました。

未定とした通期業績予想につきましては、取引先の4月～6月の生産動向を注視しながら、算定が可能となった時点において当社ホームページ等を通じて速やかに公表いたします。



# 連結財務諸表

## ■ 四半期連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	当第2四半期末 (2020年3月31日)	前期末 (2019年9月30日)		当第2四半期末 (2020年3月31日)	前期末 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産			流動負債	2,589	1,937
現金及び預金	1,315	1,250	固定負債	1,325	1,289
受取手形及び売掛金	294	331	<b>負債合計 ②</b>	<b>3,914</b>	<b>3,227</b>
棚卸資産	1,403	1,339	<b>純資産の部</b>		
その他	628	84	株主資本		
固定資産			資本金	504	504
有形固定資産	3,025	2,916	資本剰余金	354	354
無形固定資産	44	49	利益剰余金	2,237	2,160
投資その他の資産	273	290	自己株式	△ 48	△ 9
<b>資産合計 ①</b>	<b>6,984</b>	<b>6,262</b>	その他の包括利益累計額	16	20
			新株予約権	1	1
			非支配株主持分	4	4
			<b>純資産合計</b>	<b>3,069</b>	<b>3,035</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>6,984</b>	<b>6,262</b>

### Point ①

主な要因は、現金及び預金が64百万円、土地が122百万円、その他流動資産が544百万円増加したことです。

### Point ②

主な要因は、借入金が224百万円、社債が130百万円、災害損失引当金が73百万円、その他流動負債が202百万円増加したことです。

### Point ③

主な支出要因は、受取保険金の計上による462百万円です。主な収入要因は、税金等調整前四半期純利益の計上152百万円、災害損失の計上193百万円、売上債権の減少38百万円です。

### Point ④

主な支出要因は、有形固定資産の取得による支出123百万円です。

### Point ⑤

主な収入要因は、短期借入金の純増額298百万円、社債発行による収入130百万円です。主な支出要因は、長期借入金の返済による支出75百万円、株式の取得による支出39百万円、配当金の支払額38百万円です。

## 主なセグメントの状況

### ■ 四半期連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当第2四半期 (2019年10月1日～ 2020年3月31日)	前第2四半期 (2018年10月1日～ 2019年3月31日)
売上高	3,676	4,900
売上原価	2,968	4,060
売上総利益	708	840
販売費及び一般管理費	661	707
営業利益	46	132
営業外収益合計	15	30
営業外費用合計	28	29
経常利益	34	133
特別利益合計	462	—
特別損失合計	343	5
税金等調整前四半期純利益	152	127
法人税等合計	36	32
四半期純利益	115	95
非支配株主に帰属する 四半期純損失(△)	△ 0	△ 0
親会社株主に帰属する四半期純利益	115	95

### ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

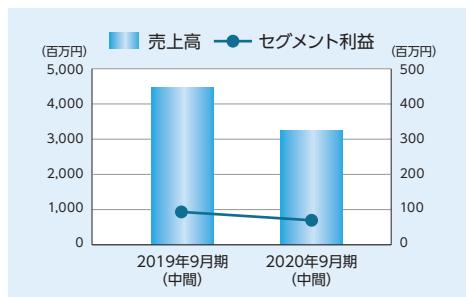
（単位：百万円）

	当第2四半期 (2019年10月1日～ 2020年3月31日)	前第2四半期 (2018年10月1日～ 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー ③	△ 75	221
投資活動によるキャッシュ・フロー ④	△ 122	△ 136
財務活動によるキャッシュ・フロー ⑤	266	△ 109
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4	△ 1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	64	△ 26
現金及び現金同等物の期首残高	620	579
現金及び現金同等物の四半期末残高	684	553

### 貴金属事業

撤退を決定した海外子会社の売上減、主要取引先の減産が期首より継続したことで貴金属の取扱数量が減少し、売上高は減少しました。

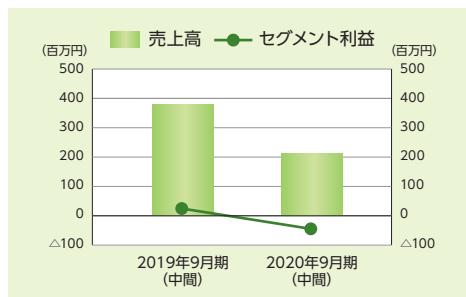
売上高は3,381百万円（前年同四半期比24.2%減）、セグメント利益は71百万円（前年同四半期比26.6%減）となりました。



### 環境事業

売上高は212百万円（前年同四半期比43.8%減）、セグメント損失は44百万円（前年同四半期は24百万円の利益）となりました。

台風19号による水害の影響で売上高・利益ともに前期を下回りました。なお、富久山工場は4月に操業を再開し、5月に復旧を完了しております。



## 富久山工場の復旧が完了しました！

2019年10月に発生した台風19号による近隣河川の氾濫で、水害被害を受けた当社富久山工場が、今年5月に無事復旧しました。

富久山工場は主に環境事業の製品を生産しており、水処理に用いられる工業薬品等の製造を行う重要拠点ですが、今回の台風19号により甚大な被害を受け、操業停止を余儀なくされていました。

私たちは、被災から2日後に復旧作業に着手し、富久山工場の復旧・再開に取り組んでまいりました。そして、被災から半年後の2020年4月に操業を再開し、試運転を経て、この度、復旧を完了することができました。

株主の皆様のご理解、お取引先様をはじめとするステークホルダーのご協力に支えられ、ここまですることができました。温かなご支援、ご尽力を頂戴した皆様に、改めてこの場をお借りして、御礼申し上げます。

年	月/日	概況
2019	10/12	台風19号が東日本を通過。 富久山工場は最大2.5m浸水し、タンクの転倒や設備の水没など、甚大な被害を受け操業停止に。
	10/14	被災から2日後、復旧作業を開始。 先行きの見えない状況の中、当社社員が一丸となり復旧作業に取り組む。
2020	4/中旬	操業を再開
	5月	復旧完了



水害直後の富久山工場（2019年10月13日撮影）



現在の富久山工場（2020年6月8日撮影）

# Information (2020年3月31日現在)

## 会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	1969年8月25日
資本金	504,295,600円

## 事業内容

- ①貴金属事業 / 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理および販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生および販売
- ②環境事業 / 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、光触媒の製造・販売
- ③システム事業 / 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発および販売
- ④その他の事業 / 工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

## 役員

代表取締役会長	山田 慶太
代表取締役社長	油木田祐策
取締役	佐久間良一
取締役執行役員	山田 浩太
取締役	佐久間幸雄
取締役(監査等委員長)	三崎 秀央
取締役(監査等委員)	高野 俊哉
取締役(監査等委員)	遠藤健太郎

(注) 取締役(監査等委員)三崎秀央氏、高野俊哉氏および遠藤健太郎氏は、社外取締役であります。

## 株式の状況

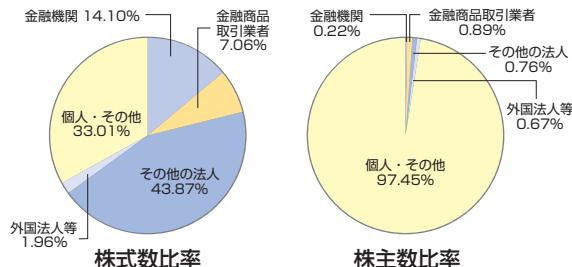
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式50,225株を含む)
株主数	2,239名

## 大株主の状況

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	1,051,030	41.67
株式会社常陽銀行	90,000	3.57
白岩政一	87,400	3.47
株式会社東邦銀行	81,100	3.22
日本生命保険相互会社	72,500	2.87
東京中小企業投資育成株式会社	50,000	1.98
竹内信彦	29,400	1.17
アサカ理研社員持株会	29,200	1.16
三枝久	25,700	1.02
長谷川聡	24,800	0.98

(注) 当社は自己株式(50,225株)を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(50,225株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日	特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日	同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-49-7009(通話料無料)
定時株主総会	毎年12月	上場証券取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.asaka.co.jp/">https://www.asaka.co.jp/</a> ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711(通話料無料) [郵送先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

### ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行が口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



## 中津川溪谷（裏磐梯）

秋元湖に流れ込む中津川の源流にある溪谷で、約10キロにわたり滝や急流、大絶壁、原生林などがあり、夏の新緑、そして秋の紅葉はどちらも絶景。中津川橋の上から全体像を見ることができですが、遊歩道から溪谷へ降りられるようにもなっているので、ぜひ河原まで下りて散歩してみたいはいかがでしょうか。（紅葉の見頃は例年10月中旬～下旬頃）

（提供：裏磐梯観光協会HP）

福島の旅が丸わかり!!

うつくしま観光プロモーション推進機構（公益財団法人福島県観光物産交流協会 内）

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号（コラッセふくしま7階）

TEL：024-525-4024 FAX：024-525-4087